

Check (検証) 生徒の実態・本校の課題

【確かな学力】

【標準学力検査 教研式CRT 第1学年・第2学年】 (R7年4月実施) *色付は注意を要すると考える点

令和7年度4月実施

1年生

		領域別得点率				観点別得点率			平均得点率
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習の取組む態度		
国語	得点率	80.9	61.6	57.1	70.6	63.3	79.4	67.0	
	全国比	109	105	92	103	102	102	103	
社会	得点率	66.3	52.6	61.3	60.9	58.0	83.9	59.5	
	全国比	105	97	127	110	101	108	105	
数学	得点率	66.7	62.0	57.4	65.3	54.0	84.8	59.7	
	全国比	110	105	98	104	110	109	106	
理科	得点率	63.0	69.2	59.4	71.5	56.6	84.5	64.1	
	全国比	104	105	101	100	99	103	100	
英語	得点率	81.7	61.1	78.1	71.9	71.0	87.4	71.5	
	全国比	105	98	104	105	104	110	105	

2年生

		領域別得点率				観点別得点率			平均得点率
		聞くこと・話すこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習の取組む態度		
国語	得点率	80.0	54.9	63.6	66.7	64.1	76.6	65.4	
	全国比	113	110	104	104	111	100	107	
社会	得点率	68.0	49.6	61.1	60.9	62.5	81.0	61.7	
	全国比	108	92	112	102	108	104	105	
数学	得点率	64.5	73.3	63.9	65.4	69.9	59.7	64.8	
	全国比	115	126	132	134	122	108	122	
理科	得点率	56.3	62.1	71.7	60.7	59.6	81.3	60.2	
	全国比	100	106	117	100	111	103	105	
英語	得点率	66.7	63.5	60.3	73.7	57.0	82.0	65.4	
	全国比	104	97	98	106	100	105	103	

○分析○

- 1年生：教科・領域別では、基礎的・基本的な事項の習得が認められる。また、観点別では【主体的に学習に取り組む態度】における数値が高い。各教科で、苦手な領域に注意して、指導していく必要がある。
- 2年生：教科・領域別では、英語科において、「話すこと」、「読むこと」に関する分野に課題が見られる。観点別では、どの項目も全国比を上回っている。また、昨年度低かった【主体的に学習に取り組む態度】の数値が高く、改善が見える。

【第3学年全国学力学習状況調査】(令和7年4月17日実施)

平均正答率	本校	北海道(公立)	全国(公立)
国語	54	54	54
数学	40	47	48

	分析	対策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 知識及び技能に関する問題で、特に漢字に関わる正答率が低かった。 思考力・判断力・表現力の「話すこと・聞くこと」と「読むこと」に関する問題の正答率が高い。しかし、「書くこと」の正答率は低く、それに伴って記述式の問題の正答率が全体的に低い。 観点に関わらず、問題文が長く、条件が設定されている問題の無回答率が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から漢字や語彙、文法などの基本的な知識について学習し、基礎基本を徹底させる。 思考力・判断力・表現力の書くことに関する分野の力を身につけさせるために、条件付きの作文や要約する機会を増やし、教師による添削や自身の推敲を行う。 テストや課題の問題文を工夫して、要点を理解し、正しく解答できるような力を身につけさせる。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能の問題では、正答率が半数を大幅に超えているものは少なく、学年全体として苦手な分野(問題)に偏りがある。 思考・判断・表現の問題では具体的な数で考える問題や生活に身近な問題については正答率が高くなっていたが、文字を用いて説明する問題や問題解決の方法を説明する問題などの正答率が低いのが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の計算については定着しているものの、単元が変わるたびに内容を忘れてしまう傾向があるので、繰り返し問題を解いて習得できるよう指導する。 文字を用いて説明する問題は、具体的な数で考えて規則性を見つけることができるので、文字に置き換えたときの数の表し方や説明方法など、穴埋め問題を活用して習得できるようにしていく。

【豊かな心】

【第3学年全国学力学習状況調査】（令和7年4月17日実施）

全国平均と比較して着目すべき数値が出ている項目（○）や低い数値が見られた項目（△）

数値（％）は、「当てはまる」と回答した生徒の割合。（ ）内は「どちらかといえばあてはまる」を含めた値

番号	種別	質問内容	本校	全国平均
1		自分には、よいところがあると思いますか	22.2 (88.9)	40.7 (86.2)
2		将来の夢や目標を持っていますか	33.3 (77.7)	35.5 (67.5)
3		人が困っているときは、進んで助けていますか	55.6 (100)	37.9 (90.9)
4		いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	100 (100)	77.1 (95.9)
5		学校に行くのは楽しいと思いますか	11.1 (88.9)	45.6 (86.1)
6		自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	0.0 (88.9)	31.4 (79.2)
7		友達関係に満足していますか	55.6 (100)	56.4 (91.4)

1⇒「どちらかといえば、当てはまる」まで含めると88.9%。自己肯定感の高さがうかがえる。

2⇒数値的には高いが、生徒の実態を鑑みれば「具体的な道筋を備えた夢や目標をもつ生徒」、「具体的というよりは、単純に将来に対して楽観的な生徒」の両者が混在していると考えられる。

3⇒「どちらかといえば、当てはまる」を含めると100%を達成。優しい生徒が多い学年である。

4⇒「当てはまる」を選択した割合が100%。いじめ撲滅集会等での働きかけが影響していると考えられる。

5・6⇒「あてはまる」と回答した生徒は少ないが、「どちらかといえば、当てはまる」まで含めると、どちらも全国平均を上回る。「あてはまる」と回答した生徒が増えるよう、自己にくわえ他者を受容・肯定できる働きかけが課題となる。

7⇒「どちらかといえば、当てはまる」を含めると100%を達成。友人関係が非常に良好な学年である。

【いじめアンケート(9月実施)】

結果⇒1年生で1件

・女子生徒1名より『同級生からたたかれたことがある』『今はされていない』と回答。

本人から事情を聞いた際に当時の状況が曖昧だった点と加害生徒の特徴から、同じような事象が起こる予兆を見つけ次第、その場で指導することを教職員間で確認。訴えのあった生徒も了承済み。

教職員間の細やかな生徒観察・情報共有から迅速で組織的な対応が可能な体制づくりを進める。

【生徒会主催の生徒集会の充実】

・いじめ撲滅集会(5月実施)

⇒書記局の演劇から、縦割班でいじめの4層構造について考え、それぞれの考えを共有できるいじめ撲滅ポスターを作成し、いじめ撲滅のための具体的な行動の在り方を検討した。どの班も上級生がリーダーとして班員に声をかけ、意見の交流を深めることができた。

・生徒集会(7月実施)

⇒レクリエーションを行いながら相互理解や絆を深めることができた。また、芸術祭等の行事の見通しを確認する時間を作り、今後の学校生活への意欲を高めることができた。

※後期は生徒集会を2回（うち1回は三送会）予定している。校則を考える会等を含めた、「認め合い、支え合い、」未来を切り拓く生徒の育成につながる生徒集会の実施を検討・実施していく。

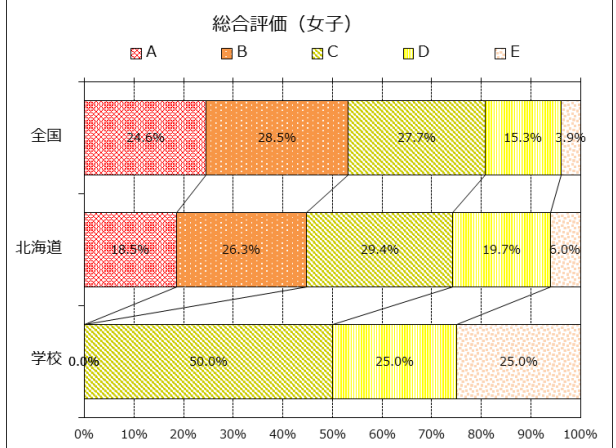
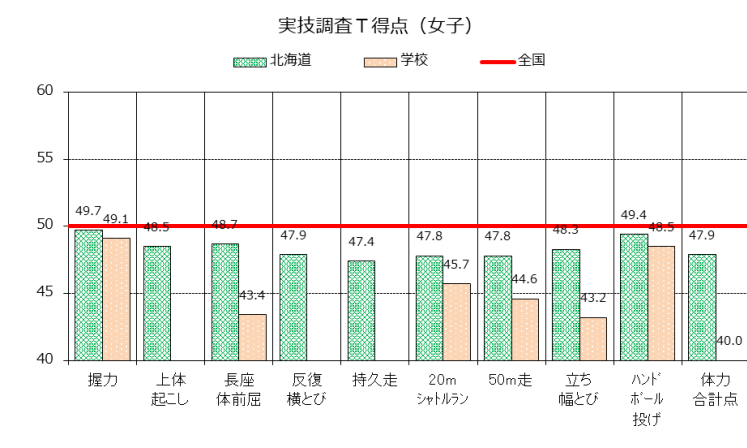
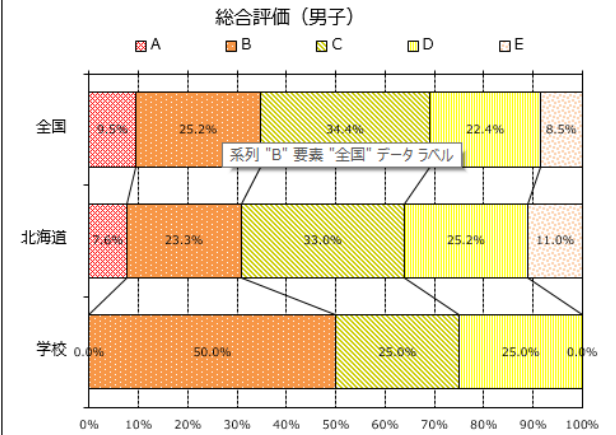
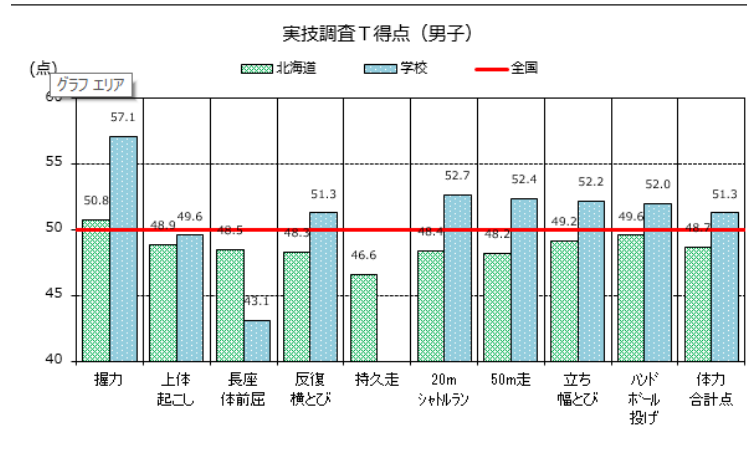
【健やかな体】

令和7年度 福島町立福島中学校学校 体力向上プラン

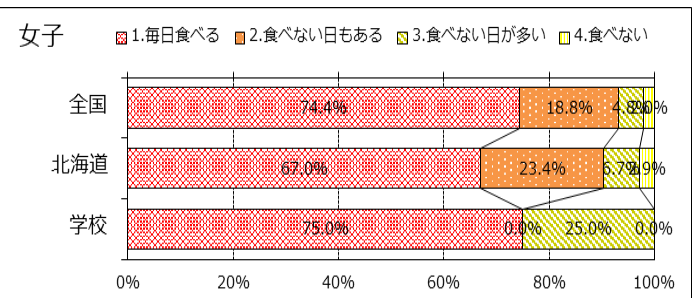
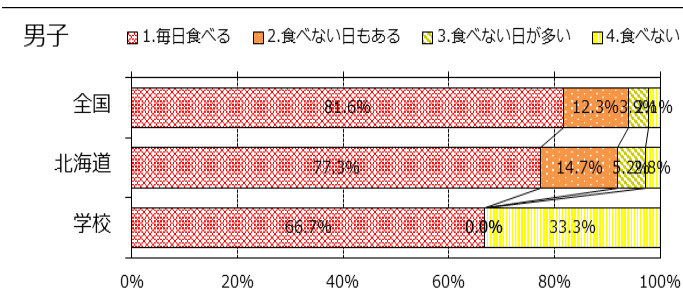
1. 本校の児童生徒の体力・運動能力等に関わる現状

○ 体力・運動能力や運動に関する意識(内面)、生活習慣、運動習慣等に関わる現状

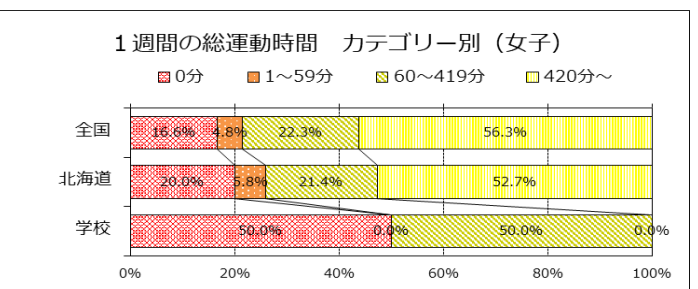
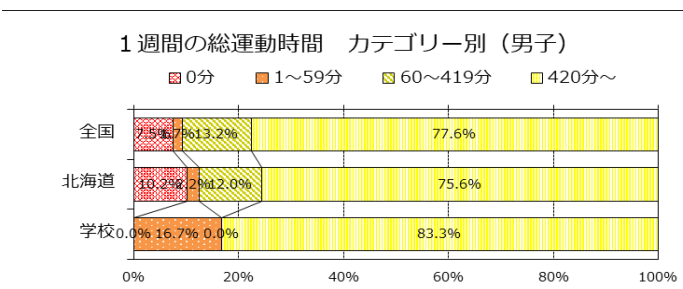
【体力・運動能力の現状】



【朝食の摂取状況】



【運動の実施状況】



2. 自校の児童生徒の体力・運動能力等の現状から分析した課題

○体力・運動能力等に関わる課題	○生活習慣や運動習慣に関わる課題
<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に女子の体力・運動能力が低い。 ・長座体前屈の柔軟性を必要とする種目に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動時間が、60分未満の生徒の割合、特に女子が多い。

3. 自校の児童生徒の体力・運動能力等に係る目標

○体力・運動能力等に関する目標	○生活習慣や運動習慣に関する目標
<ul style="list-style-type: none"> ・運動に興味・関心を持ち、自ら積極的に参加する生徒の育成。 ・体力や運動能力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝、早起き、朝ごはん運動 ・体力向上強調習慣の設定（徒歩や自転車通学の推奨） ・体育の授業が楽しいと答える生徒の割合が65%以上にする。

4. 自校の児童生徒の体力・運動能力等に関する目標達成状況

○体力・運動能力等に関する目標の達成状況に対する評価指標	○生活習慣や運動習慣に関する目標の達成状況に対する評価指標
【評価方法】	【評価方法】
<ul style="list-style-type: none"> ・前期の新体カテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体カテスト ・学級アンケート
【成果指標】	【成果指標】
<ul style="list-style-type: none"> ・男子では、全ての項目において、北海道・全国平均以上。 ・女子では、握力、上体起こしで全国平均以上の30%以上。 ・一週間の総運動時間420分以上が、75%以上。 ・総合評価A、Bの数値が実施者数の男子62.5%、女子77.8%。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝ごはんに関しては、男女とも65%以上が朝ごはんを食べる習慣が定着している。 ・授業が楽しいと答えた生徒について、女子は運動能力の低さと意欲の低さがリンクしている部分がある。
【評価結果】	【評価結果】
中間評価（10月）・最終評価（2月）	中間評価（10月）・最終評価（2月）

5. 自校の児童生徒の体力・運動能力等に応じた具体的な取組

<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業（3分間走などの体づくり運動の継続および各種学習内容の充実） ・新体カテストの分析及びそれを生かした体育授業の実施 ・部活動（放課後、休日での継続実施） ・全国体力、運動能力、運動習慣等調査結果からの体力向上プランの見直し ・保健学習においては、生涯にわたり、運動やスポーツの意義や効果、健康な生活に必要であることを理解させる

6. 次年度に向けた具体的な取組の改善・充実

<p>評価方法に関しては、新体カテストの項目と学校独自で行うアンケート調査を行っていきたい。</p>
--

Goal (目標設定) 実施期間中における目標

【確かな学力】

令和8年度4月において、つぎの2点を実現できるよう、研修を中心とした日々の授業改善を図る。

- ・標準学力検査 教研式CRT(1・2年) ⇒全国平均を超える
- ・全国学力・学習状況調査(3年) ⇒全国平均正答率を超える

【豊かな心】

- ・未来をみつめ自ら学ぶ生徒の育成
- ・多様性を尊重し、お互いに高め合う生徒の育成

【健やかな体】

- ・令和8年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査⇒1項目でも多く全国平均を上回る

Plan (計画) 目標達成に向けての計画

【確かな学力】

- (1) 個の実態に応じた多様できめ細かな指導体制の工夫
- (2) 目的に応じた課題設定やまとめ、振り返り活動の徹底
- (3) 家庭と連携した家庭生活および家庭学習習慣の向上
- (4) 教師としての資質や専門性を高める研修の充実

【豊かな心】

- (1) 集団づくり・授業づくりを通じた未然防止的な生徒指導
- (2) 命の大切さや自らの生き方を前向きに考える教育活動
- (3) 生徒主体による教育活動(生徒会活動)の充実

【健やかな体】

- (1) 福島中学校体力向上プランの確実な実施
- (2) 校区内小学校との連携
- (3) 保健体育の授業の工夫改善

Action (具体方策)

【確かな学力】

- (1) 個の実態に応じた多様できめ細かな指導体制の工夫
 - ・基礎基本を確実に身に付け、「わかる」「できる」を感じさせる授業実践と評価の工夫
 - ・ICT機器を効果的に活用し、学習意欲を喚起する授業の実践
 - ・学習指導員による支援が必要な生徒へのサポート
- (2) 目的に応じた課題設定やまとめ、振り返り活動の徹底
 - ・「自分の理解状況を確認する振り返り」や「学習内容を既習の知識や実社会、自らの生き方と関連付ける振り返り」、「自己変容を自覚する振り返り」等の場面の意図的な設定
 - ・自らの学習を調整する力や仲間と粘り強く学ぶ力の育成のため、ICTを活用した効率化と双方向での授業体制の確立
- (3) 家庭と連携した家庭生活および家庭学習習慣の向上
 - ・学習アプリを活用した家庭学習の取り組みと個に応じた指導の充実
 - ・委員会活動と連携した学力向上を目指す全校的な取り組みの計画と実施
 - ・長期休業期間中の学習サポートへの取り組み(ICTの活用含)
- (4) 教師としての資質や専門性を高める研修の充実
 - ・全職員が研究授業を実施し、事後研を通じて互いに高め合う校内研究の充実
 - ・組織的な新任者研修、メンター研修の充実
 - ・学校外での研修会等への積極的参加と校内への還元、実践

【豊かな心】

- (1) 集団づくり・授業づくりを通じた未然防止的な生徒指導
 - ・生徒と教師の望ましい人間関係の構築
 - ・いじめや問題行動未然防止のためのふれあい活動の充実
- (2) 命の大切さや自らの生き方を前向きに考える教育活動
 - ・道徳科の授業の質の向上
 - ・ローテーション授業を行い、全職員で取り組む姿勢作り
- (3) 生徒主体による教育活動（生徒会活動）の充実
 - ・年間行事の見直し
 - ・見直しのもてる計画作り

【健やかな体】

- (1) 福島中学校体力向上プランの確実な実施
 - ・新体力テストを全学年で年3回実施
- (2) 校区内小学校との連携
 - ・W-UP（3分間走の実施）
 - ・体力テストの結果交流
- (3) 保健体育の授業の工夫改善
 - ・新体力テストの実施
 - ・授業導入時の体づくり運動の継続

Check（検証） 月別計画

【11月】 チャレンジテストの実施（登録あり）

【1月】 チャレンジテストの実施 3年生（登録あり）
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえ分析。

【2月】 チャレンジテストの実施 1, 2年生。次度に向けて、これまでの取組を振り返り、改善策を検討。

【3月】 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の分析をもとに作成した体力向上プランの提案。

Goal（目標設定） 目標の再設定

- 全国学力・学習状況調査、教研式学力検査の結果、日常の学習状況・定着状況を踏まえた目標の再設定。
- 半年ごとの改善プランの見直しにおけるPDCA検証サイクルの実施。
- 教育課程編成や単元計画作成の充実と、定期的な見直しによる魅力ある授業づくりの工夫・改善。